

真昼の星は
見えない



R18
—FOR—
ADULT
ONLY
—

チヌカラグルという
星を知っているか

天上の星は日々
移ろっている

同時刻に見上げても
鳥や空域が違えば
同じ星空を眺める事は
叶わない

だがチヌカラグルは違う
どの時刻どの空域
例えばイスタルシアから眺めても
空の中心で瞬いているそうだ

—操舵士の間では
ステラマリスとも
言ったか

ステラマリスなら
ラカムから聞いたこと
あったかも

夜間航行の際の
目印の星でも
あるからな

導き星

天星

星心

様々な呼び名が
あるが……



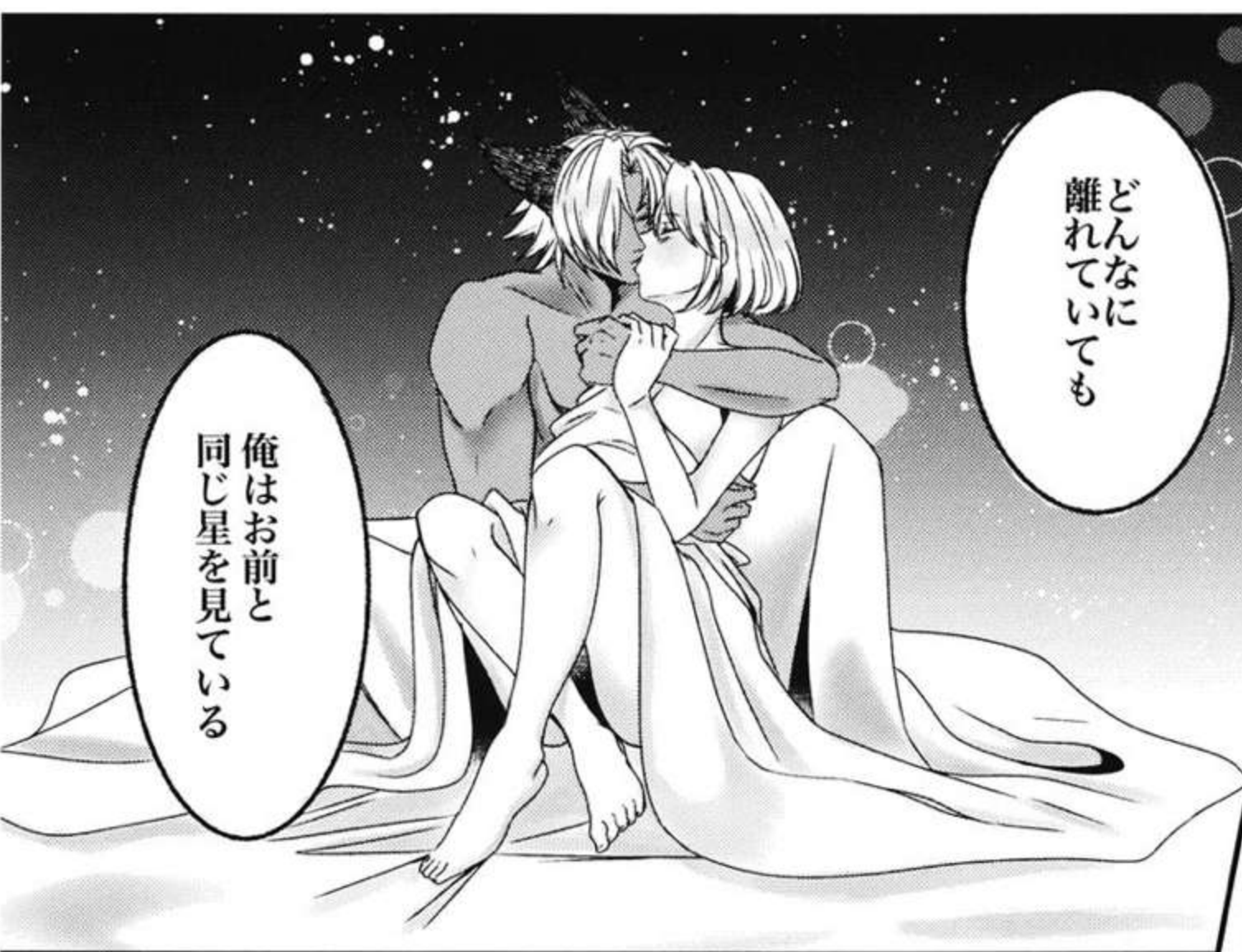
俺の故郷では
チヌカラグルー

「星神」と
呼んでいた



星の神様かあ…

素敵だね



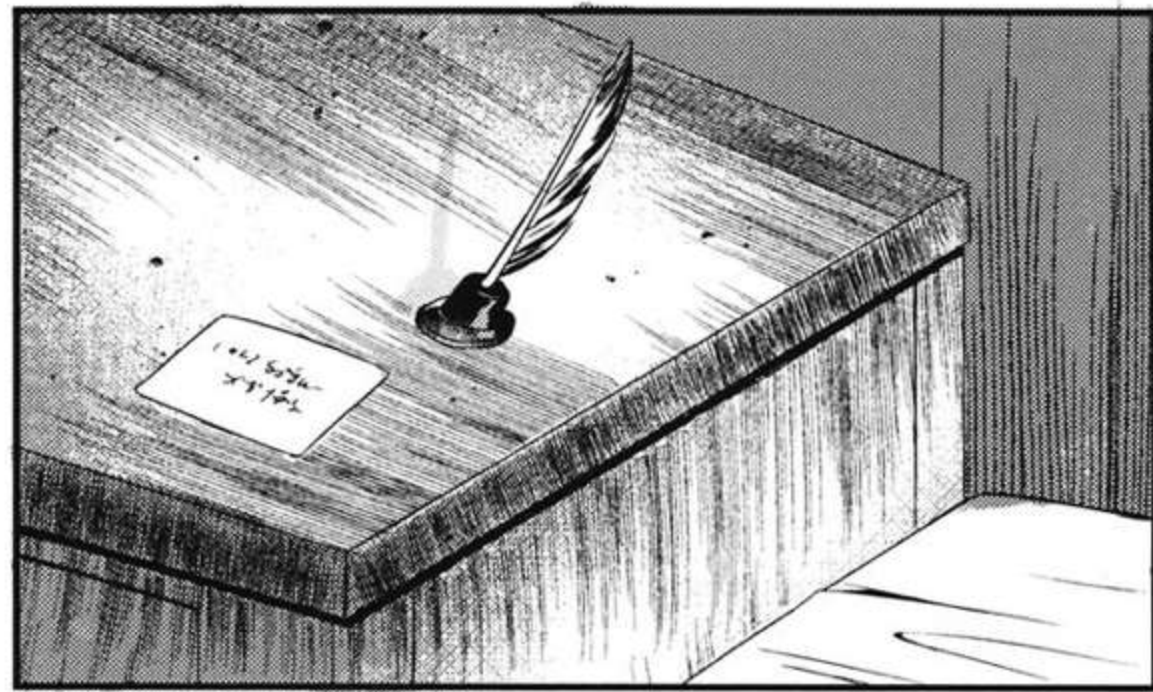
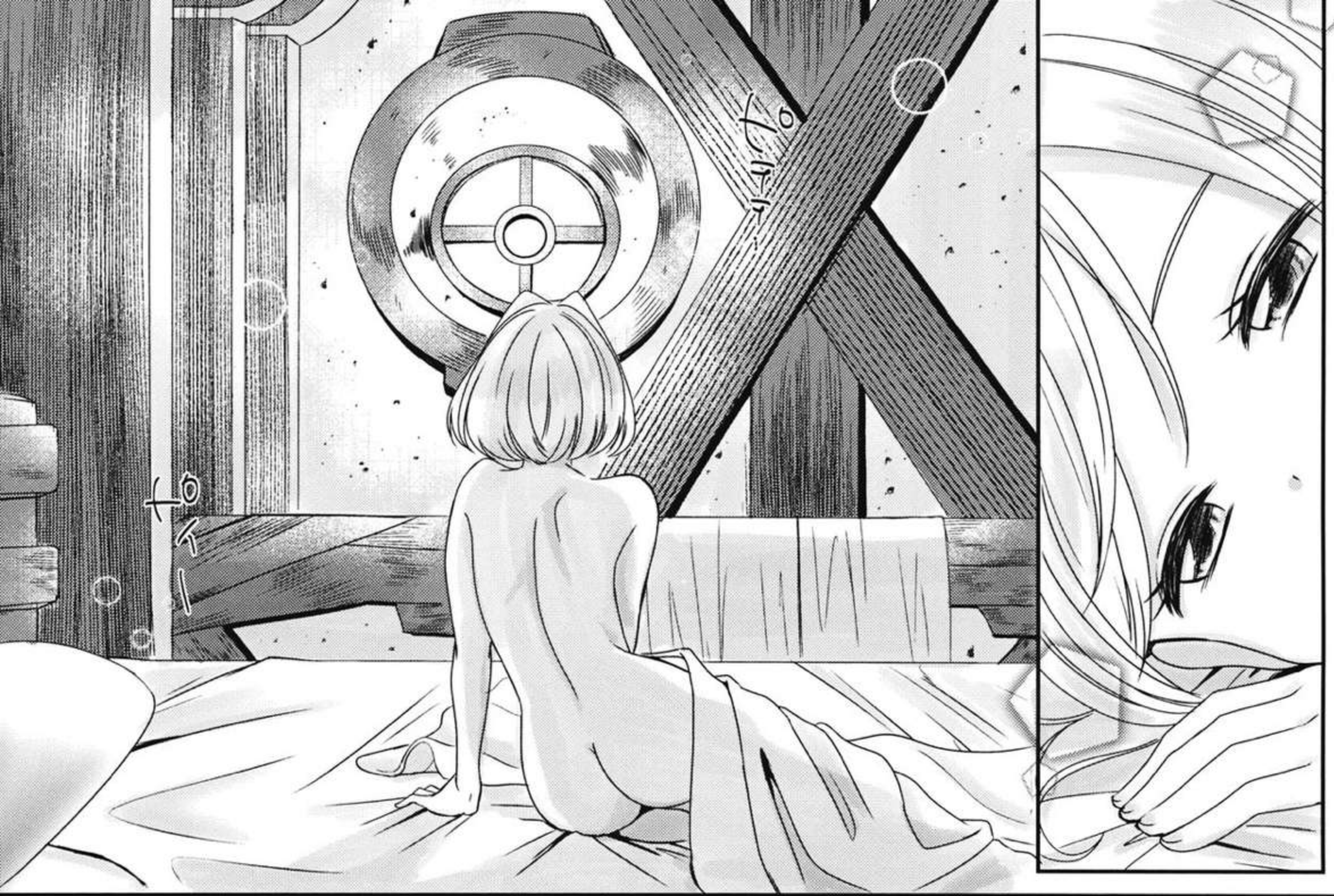
どんなに
離れていても

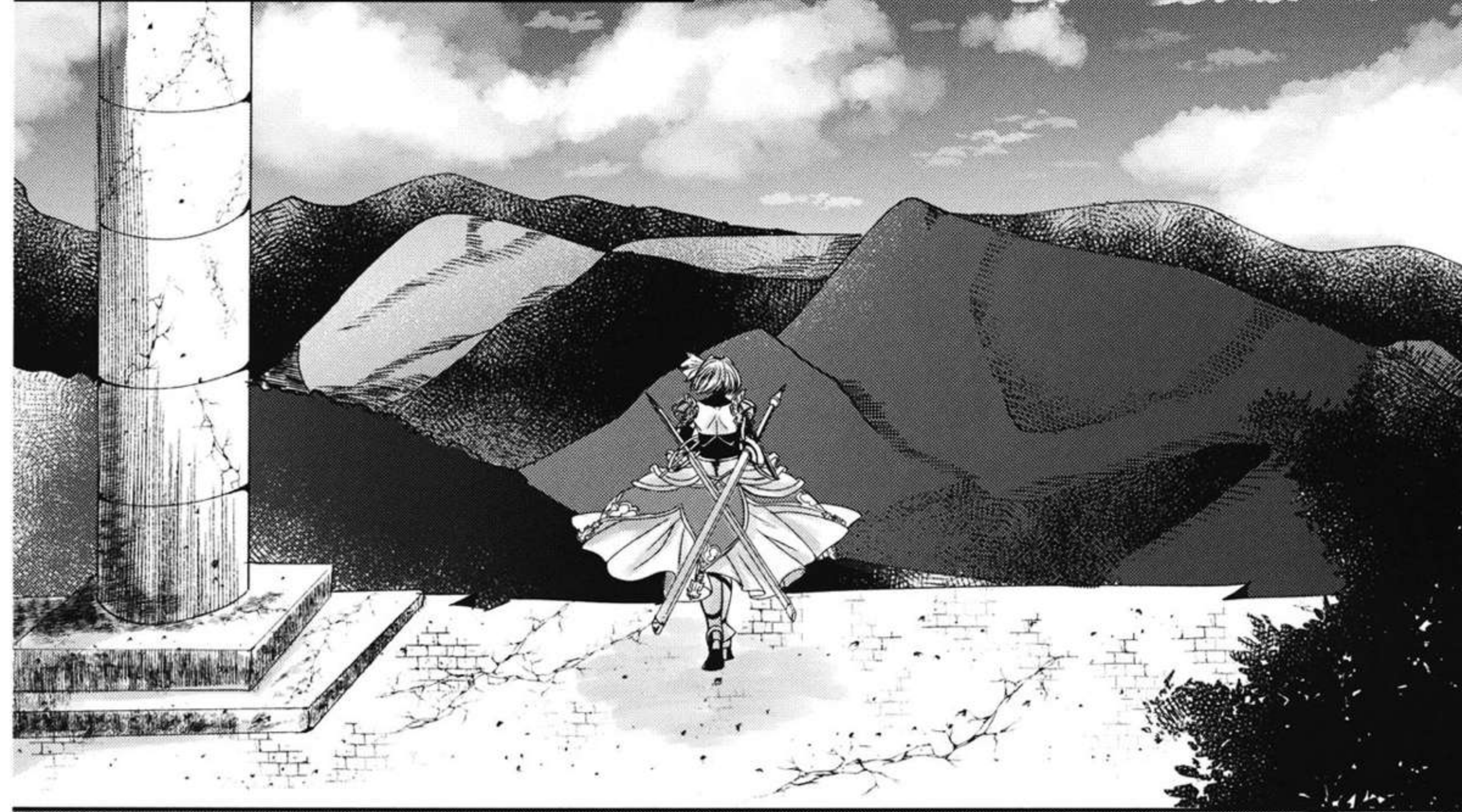
俺はお前と
同じ星を見ている



…心細くなる時が
あるのなら

あの星を
見上げると良い







うーん
星が見えないかなって

そんなところで
何してんだ？



ジータ？



星イ？!

こんな真昼間から
見える星なんて
聞いたことねえや

そうだよねー



なんかよお

お前最近
ユーステスのやつに
似てきたよな

ほらアイツもよく
平穏と静寂がよって
よくわかんねえこと
言い出すだろ
そっくりだぜ？

そつ
そんなこと
ないよ

—似た者夫婦

というよりは
星云々はそのまま
彼の受け売りだろうな

サンダルフォン?!

ごごめん

迎えに来てくれたんだ
優しいね!

全く
団を率いるべき君が
立ち止まっていて
どうするんだ?

違う
イオたちが
立ち往生して
困っていたからだ





—わからないんだ

今日もこの空のどこかで
生きていてくれれば
いいって思ってるはずなのに

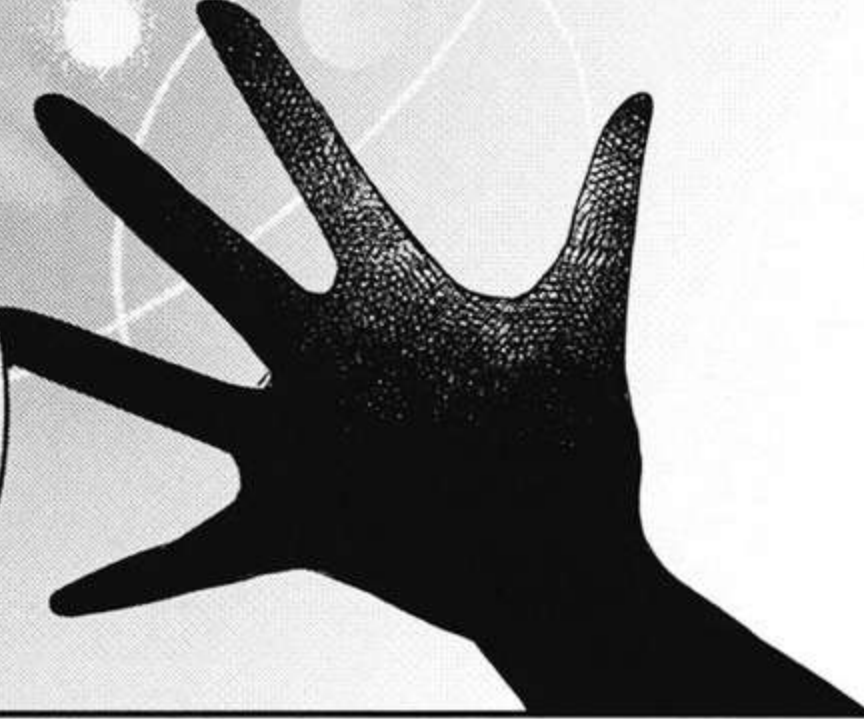
小さな頃
お父さんがいなくて感じた
淋しい気持ちとは違うの

どうしても
逢いたくなってる

名前を呼んでほしい

耳に触れたい

どんどん
自分の中から
いろんな気持ち
が溢れて止まらなくなる




ないものねだり
ばかりしてる


真昼に星なんて
見えるはずなのに




—はっ



ナンセンスだな



内から出た
感情や衝動に
名前をつけないまま



また心の抽斗に
ご丁寧
仕舞い込むのか
君は



仕舞い込む…



そうだけ
もやもやした気持ちを
そのままにしてたら
いつか溢れちまうだろ



それとも

君にとって
彼はその心の
荷物を預けるのに
相応しくない？

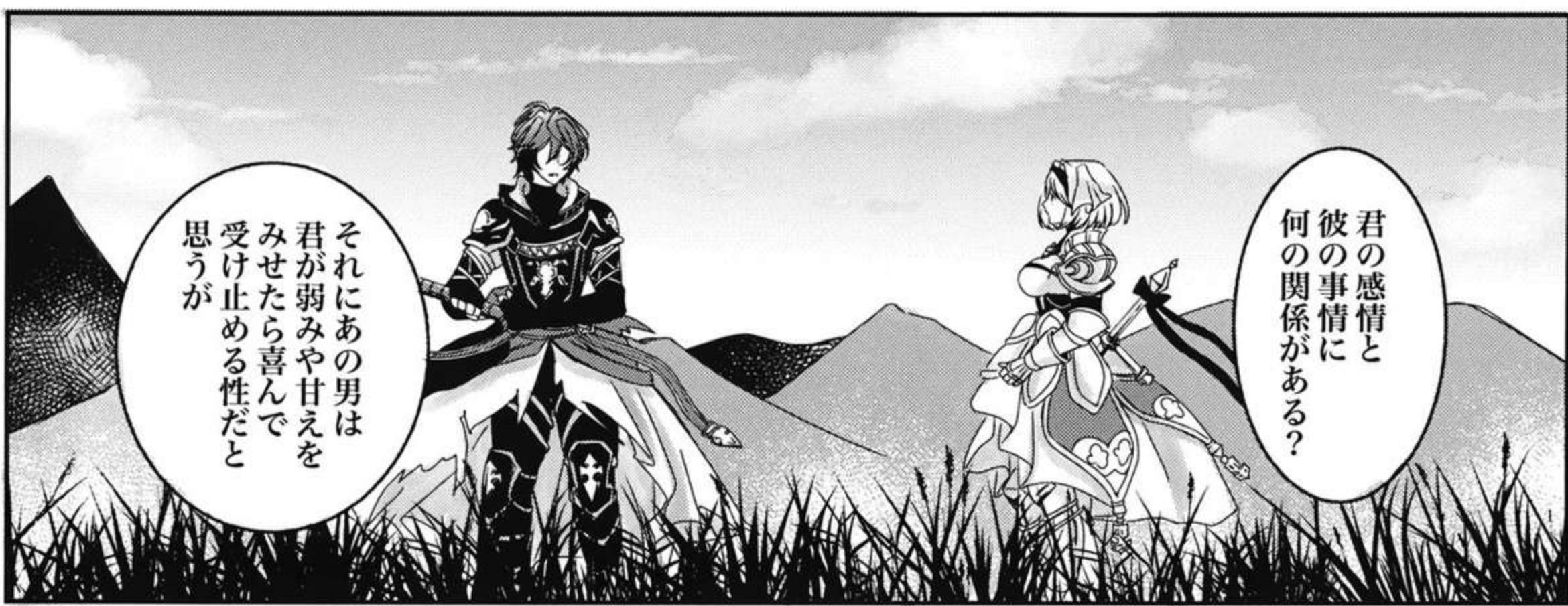
そっ
そんなこと
ないっ！



ないけど、

忙しい人だし
ユーステスは組織とか
私の知らないなにかを

いっぱい
抱えてる人
だから…



君の感情と
彼の事情に
何の関係がある？

それにあの男は
君が弱みや甘えを
みせたら喜んで
受け止める性だと
思うが



そうそう！
オイラにや恋つてのは
よくわかんねえし
こうして話を聞くことしか
できねえけどよ

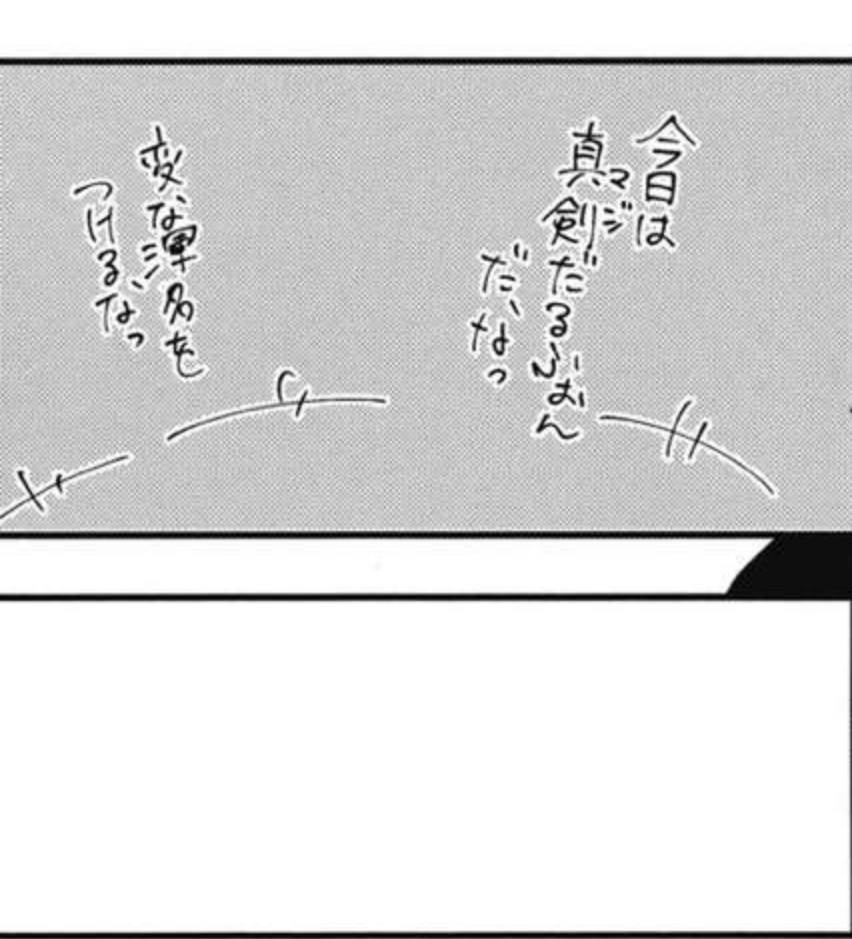
お前にとって
ユーステスがとても
大切なやつなんだって
ことだけは
わかってるつもりだぜ

ビー…



君たちは圧倒的に
言葉が足りていない
ようだからな

そこにどれだけの
重みがあったとしても
抽象的な表現や
代替的な行為では
伝えきれない想いも
あるだろう



素直にぶつけて
みるといい

それはかつて俺が
できなかった事で

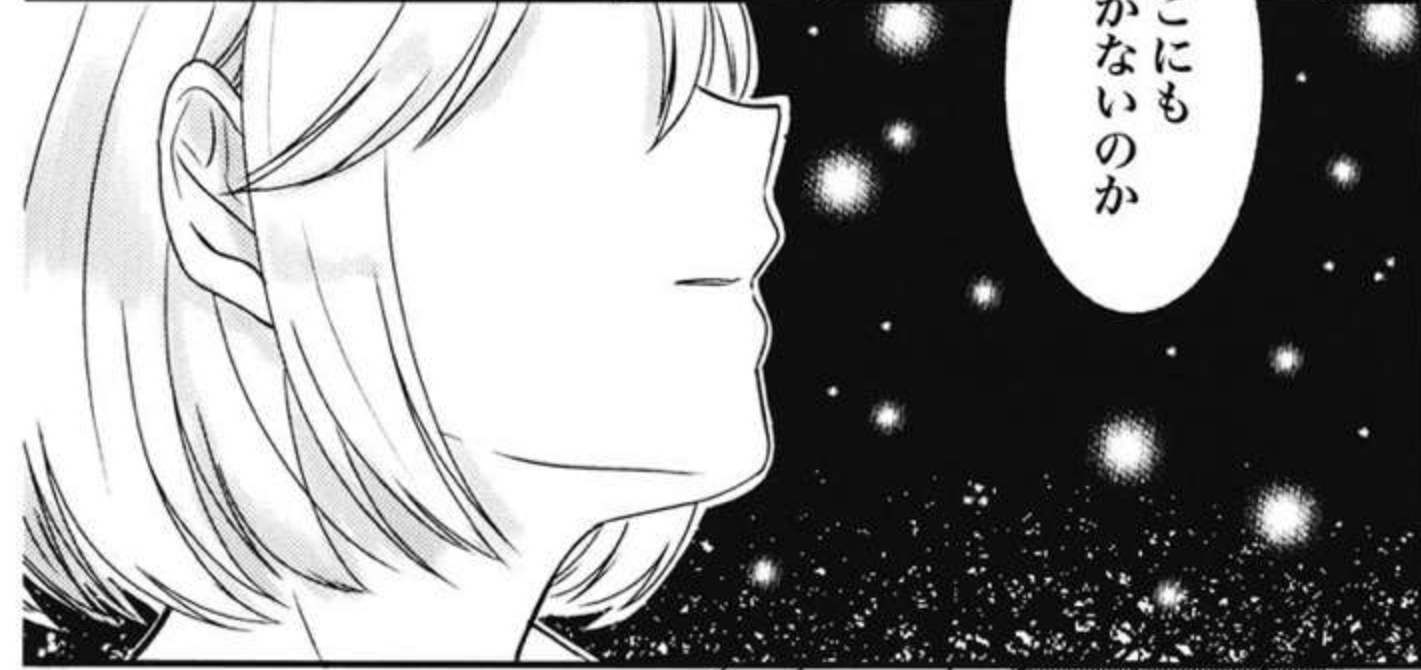
君の一番の
武器だろう？
特異点



お前は



どこにも
行かないのか



—ああそうか

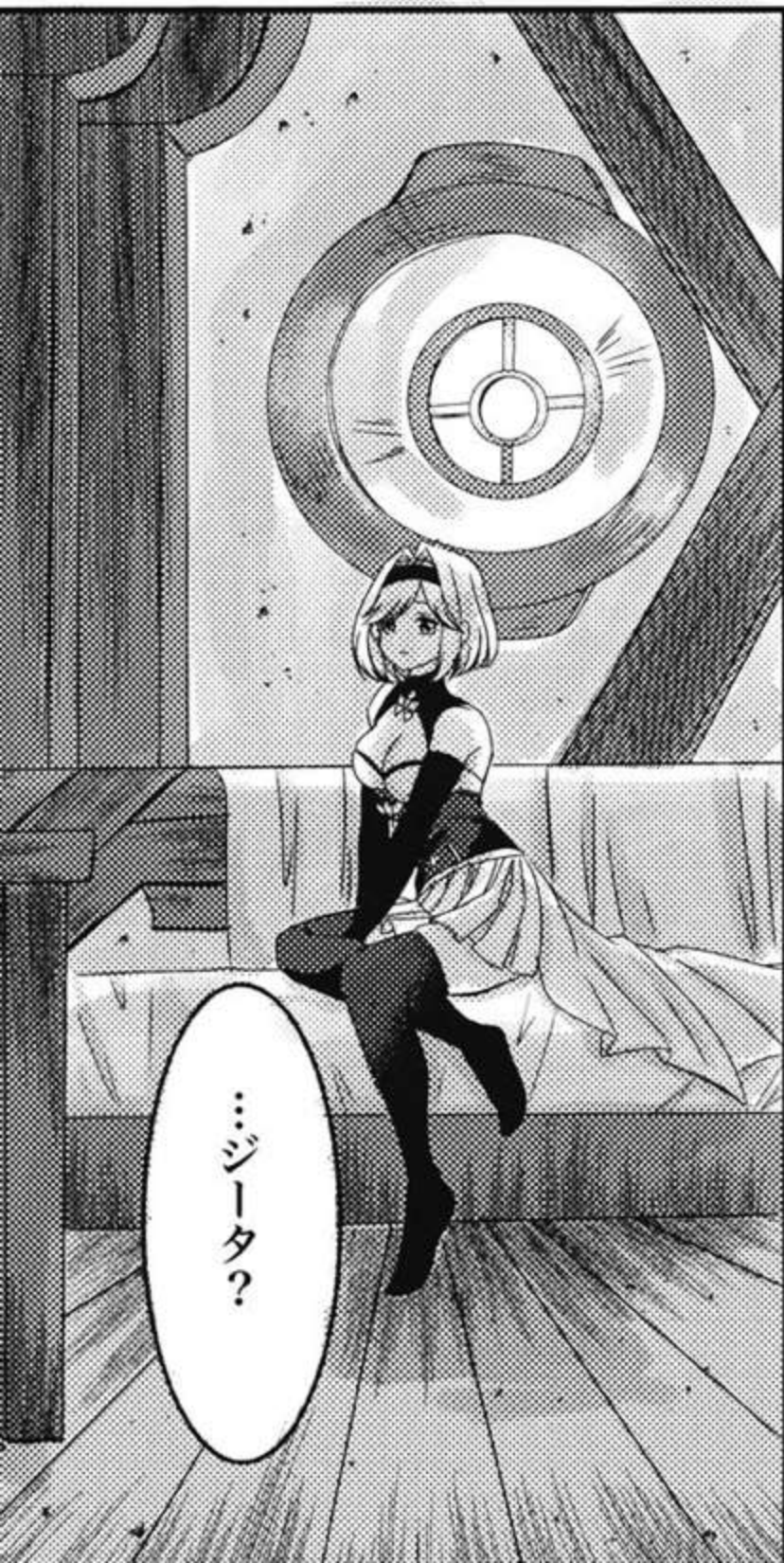


私—



ユーステスの
傍にいたい

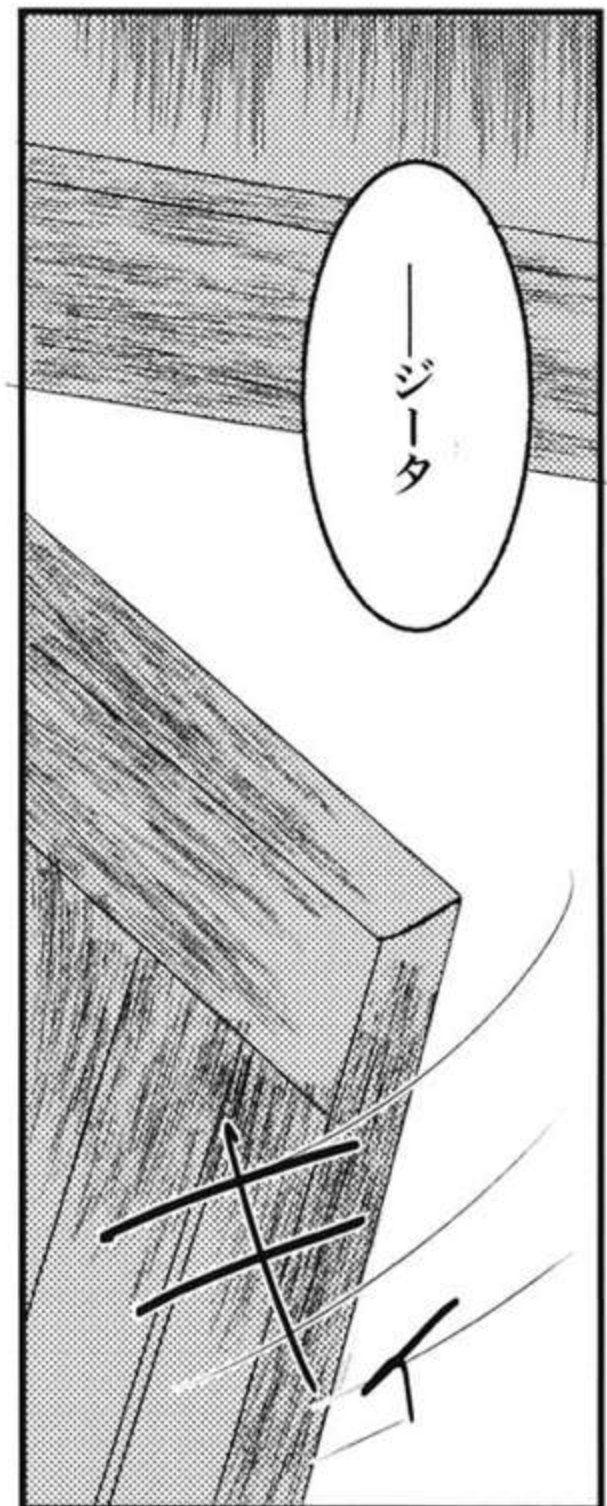
私



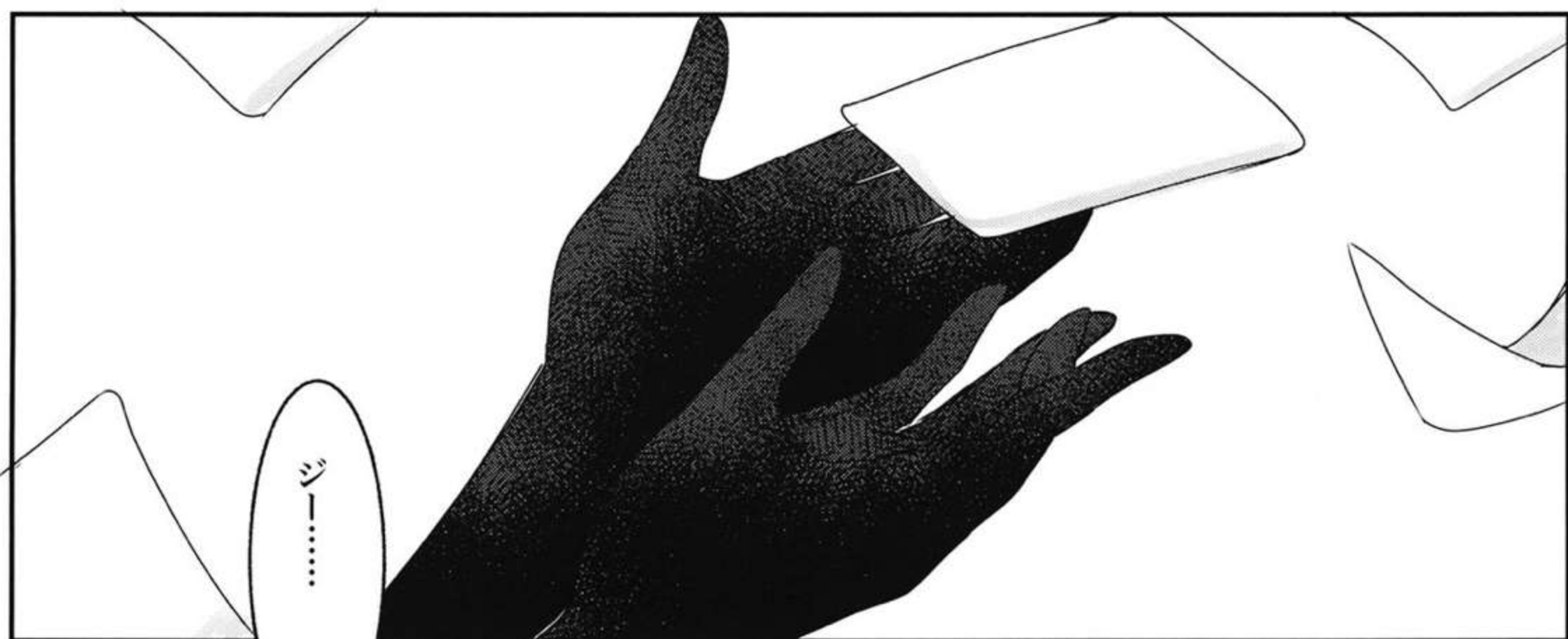
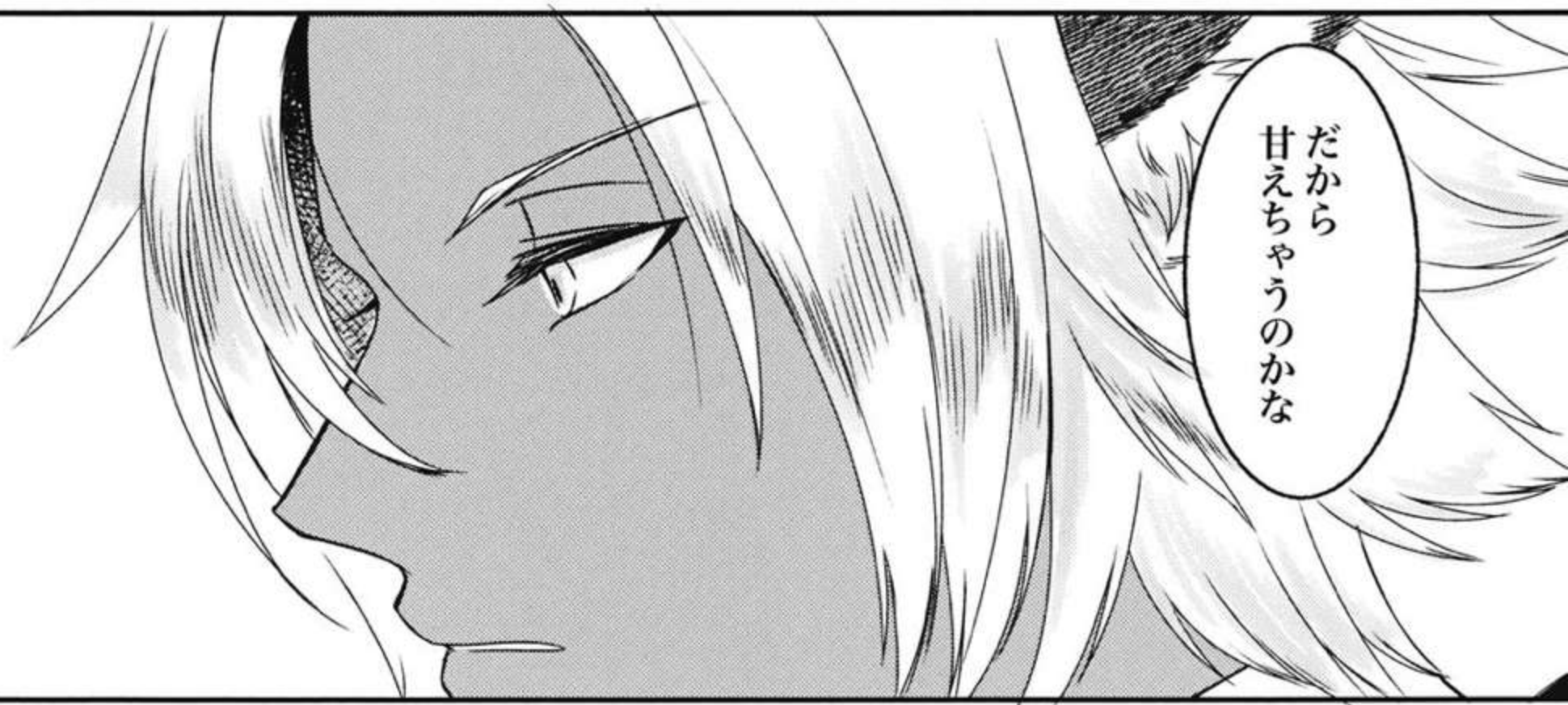
...ジータ?



ただいま



—ジータ





言わなくても
ユーステスなら
私の気持ちを

ぜんぶ
わかってくれるって
甘えていたの



でも君は私じゃないし
私は君じゃない

だから
逃げないで
言葉にしなきゃ
伝わらない



君は
ひとりぼっちが
淋しいことを

知っている
人だから

星なんか
見えない

手紙も
文字も
いらな

君の代わりなんて
何処にもないよ

ユーステス、

ただ君が、

君がいいの

君が欲しい



——スズク

くれてやる



淋しくて

逢いたくて

心と
身体が
ふるえて



…だめ、

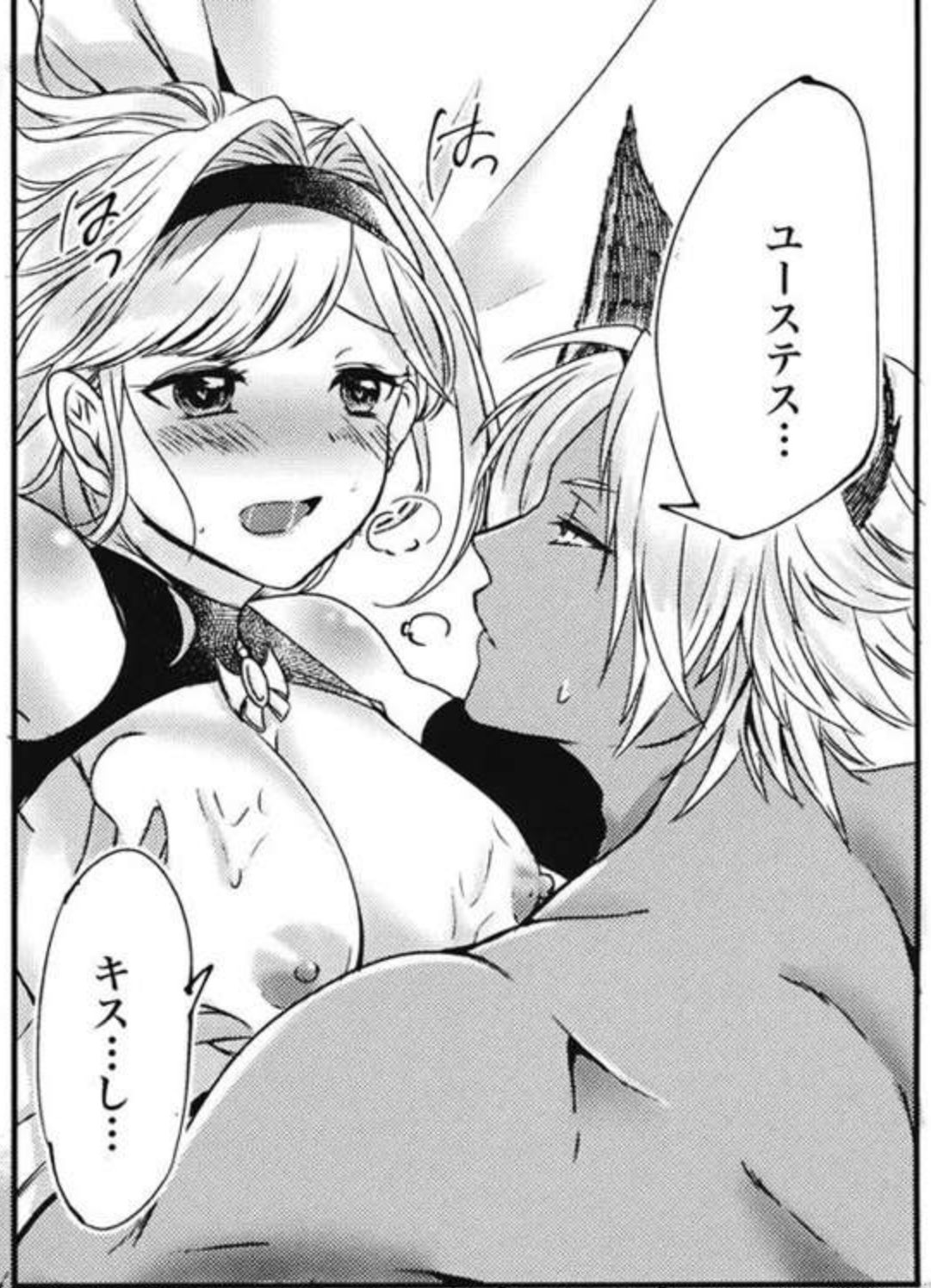
君といると
私わがままな子に
なっちゃう

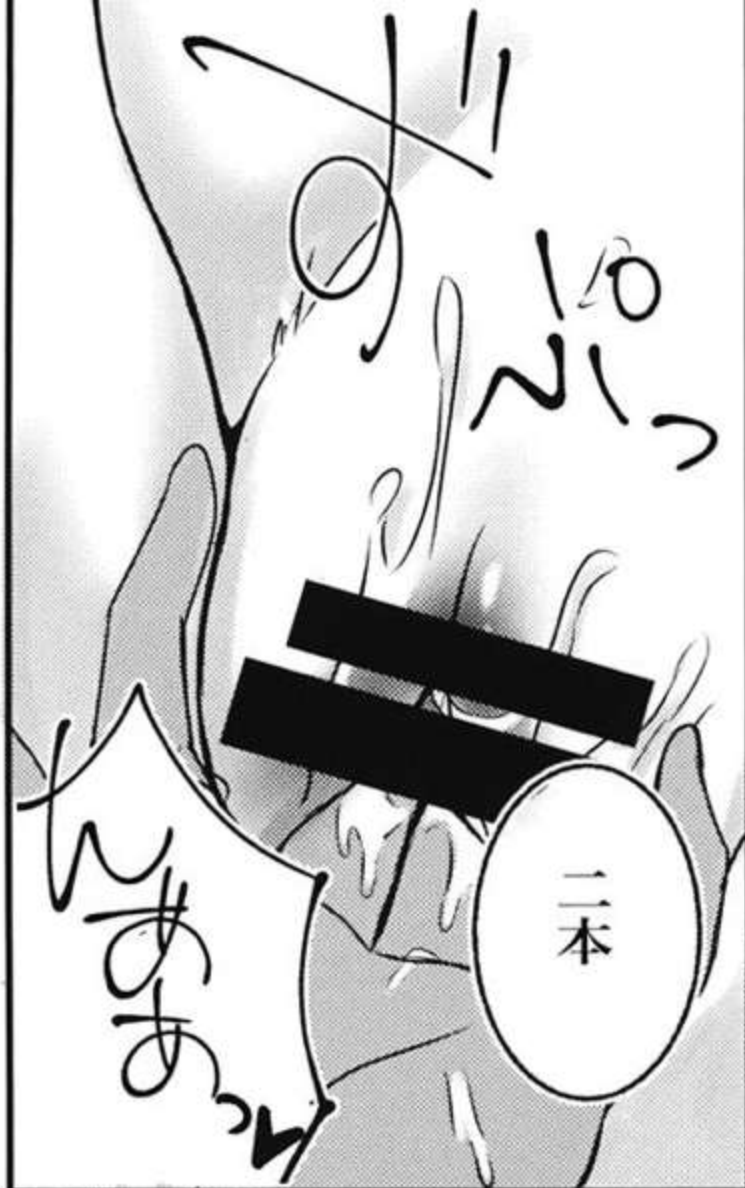
それでいい

ぜんぶ
君で満たして
ほしくなる

すべて
応える







二本



何本欲しい？

そんなの
わかんない...



...もう
溢れているな



あっ

んゅっ
ユーステスが
いつもいっぱい
さわるからっ...

昔に比べて
随分容易く
呑み込むように
なったな？



俺のが
良いのか



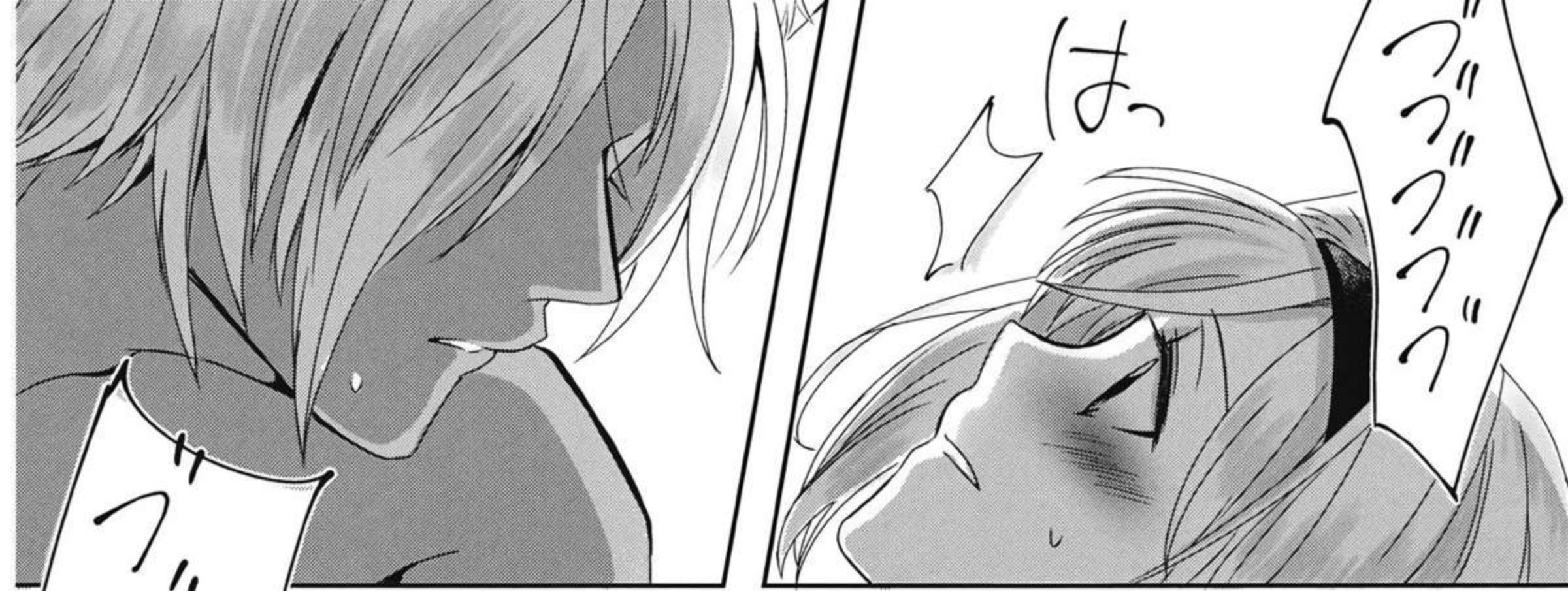
指で
果てるのは嫌か？

...そうか



やだ...っ
このままじゃ...っ

このままじゃ
いっぢやう...っ





いいんだ



俺も、

お前が欲しい



あーっ

あーっ



動くぞ



嬉しいな
私の奥で
どんだん
熱くなってる

んあ...
おっきい



あー



あー

あー



あー

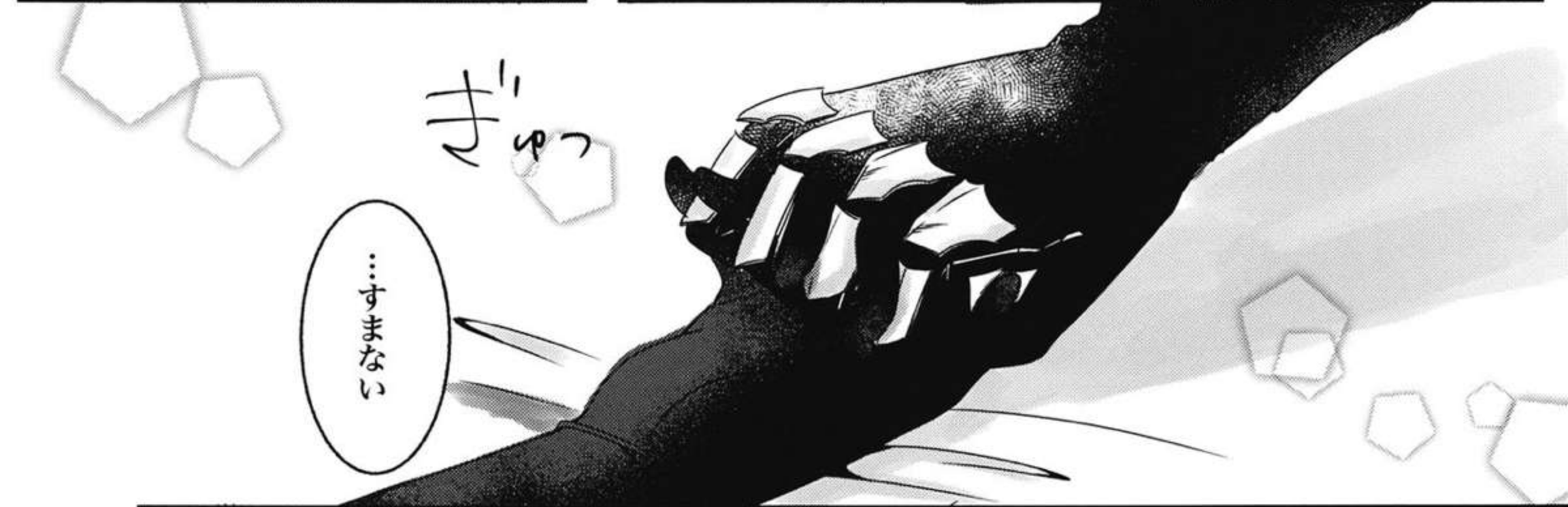
あー

あー





——了解
すぐに向かう



おっ
やっ

…すまない



それでも俺は



今の俺には
お前の望みを
全て叶える事は
できない



お前を求めて
しまうな



どんなに
遠く
離れていても

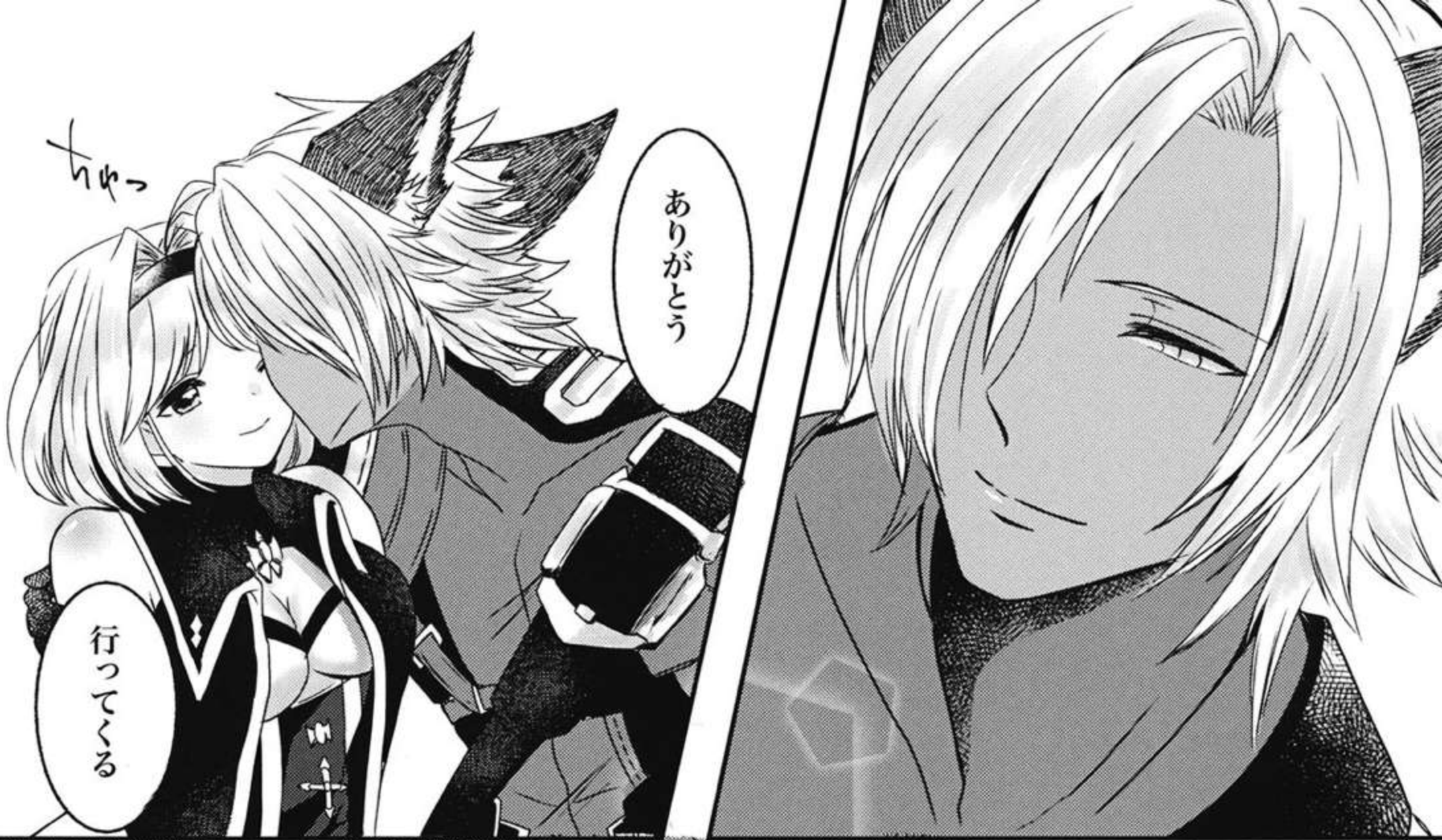
私と君は
同じ星を見ている、
でしょ？



いいんだよ



星は
求めあつて
はじめて輝くの



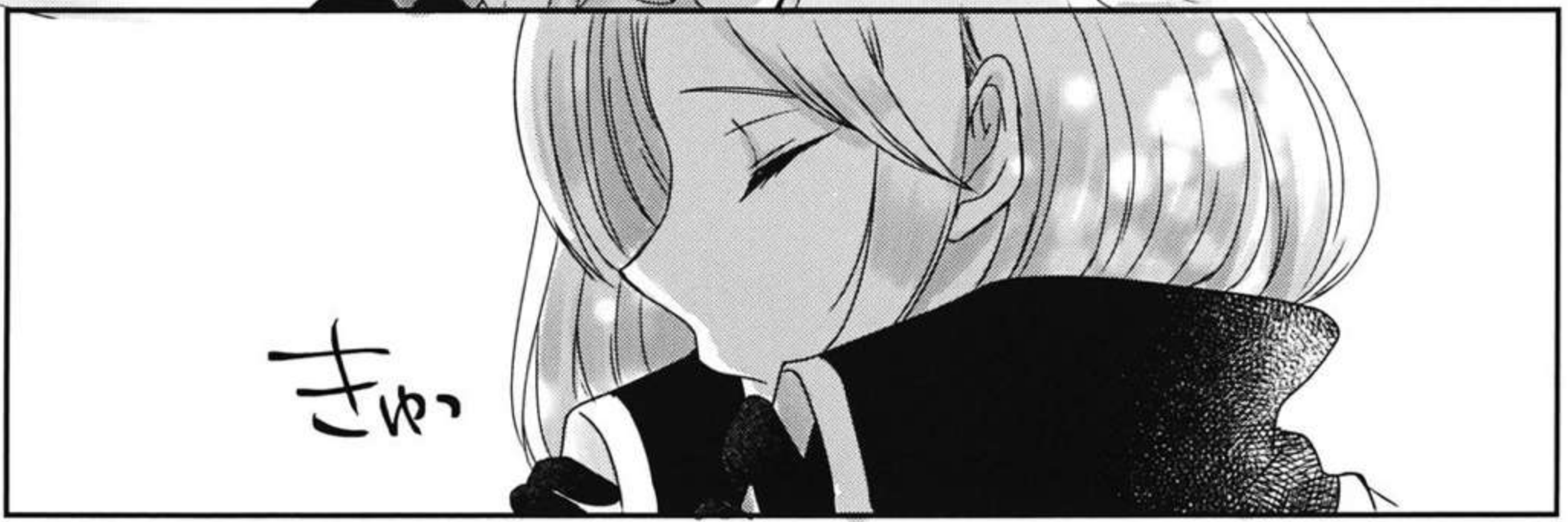
行ってくる

ありがとう

ひゅ



行ってらっしゃい



きゅ



言えなかったな

いちばん
大切なこと



真昼の空に
星が見えなくても

私の心の奥で
光ってる

きらきら輝く
想いの名前



同じ星が
見えてるかな



君にも

あいしてる



発行日:令和元年10月13日
発行者:ふたみゆうり(サテライト)
連絡先:ysmoonprayer@hotmail.co.jp
Twitter ID:saty_feoh
Pixiv ID:1664785
印刷会社:株式会社ポプルス様

本書籍の無断転載・公開はお断りいたします。

はじめての成人漫画でした。
この歳になってはじめて濡場を描くことになるとは…

と、いうのもユスジタちゃんはあまりピュアで終わらせたくないなあと言ったのがありまして。付き合ってもない女の子の首に噛み付こうとする男がいざ愛しいものを前にして待てできるの？いやユーステスなら多分理性で抑えられるかなと思うんですけどジータちゃんが背伸びしてきたら？無理だろうなだって愛してるもんなあとしみじみ。

男と女なユーステスとジータちゃんが描けて楽しかったです。今回は全年齢向けアンソロジーを嬉しいことに発刊できることになってのひとつの挑戦でしたので次からはまた健全本になるかなーと。いやでももっとしっとり丁寧に描いてあげたい気も…する……

と、3でワリはオオル衣装エロあきません??天キ
あと彼しゃり大好き物なのでもとジータちゃん
彼しゃり着るべきだと思いまあ(早口)
ふたみでした!



マシマロにっながいぞ、
ジータちゃんのお月田が
大きいのは超々末ぞす
すみません…
ユーステスに2カッポくらゝ
育ちもさったん
じやないかあ!





Je Te Veux